

管理栄養士課程における DOHaD（ドーハッド）説の理解度に関する継続研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 日本DOHaD研究会 公開日: 2018-03-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 菊池, 百華, 高橋, 芽夢, Dixon, Robyn, Wall, Clare, Bay, Jacquie, 小山田, 正人 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/3304

管理栄養士課程における DOHaD (ドーハッド) 説の理解度に関する継続研究

○菊池百華¹⁾, 高橋芽夢¹⁾, Robyn Dixon²⁾, Clare Wall³⁾,
Jacquie Bay⁴⁾, 小山田正人¹⁾

藤女子大学 人間生活学部 食物栄養学科¹⁾, School of Nursing,
University of Auckland²⁾, University of Auckland³⁾,
Liggins Institute, University of Auckland⁴⁾

【目的】DOHaD 説の社会への普及には、ライフステージに関わる幅広いヘルスプロフェッショナルへの DOHaD 教育が重要と考えられる。われわれは、2015 年より「DOHaD に関する理解についての国際比較プロジェクト」の一環として、ヘルスプロフェッショナルの教育過程における DOHaD 説の理解度の変化を明らかにする目的で、管理栄養士課程の学生を対象とした DOHaD 説の理解度について質問票調査を行っている。本学会では、2015 年度に加えて、2016 年度以降の結果を含めて発表する。

【方法】DOHaD 説の理解度に関する質問票は、12 の質問項目よりなる。調査対象は、管理栄養士課程の女子大学生で、1 年生から 4 年生の 4 学年、それぞれ約 80 名ずつ、2015 年度、2016 年度、2017 年度の 3 ヶ年、4 月～5 月に調査を行った。

【結果】回答は、2015 年度と 2016 年度で、各学年 56～88 名の学生から得られ、回答率は 71～95%だった。DOHaD 説の理解度に関する設問である「妊娠中の女性の栄養は、子供の成人期全体にわたる健康に影響を及ぼし、生活習慣病の発症に関わる」に対して、「賛成」と答えた割合は、2015 年度と 2016 年度で、それぞれ 1 年生では 29%と 38%、2 年生では 42%と 61%、3 年生では 71%と 56%、4 年生では 54%と 69%だった。3 年生までは 1 年の学年進行で「賛成」の割合が増加していたが、3～4 年生では増加は見られなかった。「子供の 2 歳までの栄養は、成人期全体にわたる健康に影響を及ぼし、生活習慣病の発症に関わる」への回答も同様の結果だった。2017 年度については解析中である。

【結論】DOHaD 説の理解度を 2015 年度と 2016 年度で比較したところ、3 年生までは 1 年の学年進行で DOHaD 説の理解度が増加していたが、3～4 年生では増加は見られなかった。学会では、2017 年度の結果も含めて、学年進行と DOHaD 説の理解度の関係を発表する予定である。